

## 第 6 学年 音楽科学習指導案

### 1 題材名 いろいろなひびきをあじわおう

教材曲 「ラバースコンチェルト」 作曲：デニーランデル・サンデーリンザー  
 編曲：石桁 冬樹  
 組曲『王宮の花火の音楽』から「歓喜」(鑑賞教材)  
 作曲：ヘンデル  
 使用音源：CD DCT-2209/10 (教育芸術社 鑑賞用CD)

### 2 題材の目標

- 楽器の音色が重なり合ういろいろな響きの違いを感じ取り，思いや意図をもって表現したり，響きの違いのおもしろさを味わって聴いたりすることができる。
- 音色の特徴を生かし，全体の響きのバランスに気を付けて楽器の組み合わせや演奏の仕方を工夫することができる。

### 3 題材の評価規準

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価 規準	楽器の音色が重なり合う色々な響きを進んで聴いたり表現したりしている。	楽器の音色が重なり合う響きの違いを感じ取り，楽器の組み合わせや演奏の仕方を工夫している。	パートの役割を理解し，拍の流れに乗って，全体のバランスに気を付けて演奏している。	楽器の音色やその組み合わせによる曲想や響きの変化のおもしろさを味わって聴いている。
歌唱				
器楽	○	○	○	
音楽づくり				
鑑賞	○			○
具 体 の 評	1 ① 楽曲の構成や楽器の音色に関心をもち，響きの変化を楽しんで聴いている。			① 楽器の音色やその組み合わせによる曲想や響きの違いのおもしろさを味わって聴き友達に伝えている。
	2 ② 楽器の音色や重なり合う響きに関心をもち，演奏のよさやおもしろさを見つけようとしている。		① 拍の流れに乗って自分のパートを演奏している。	
	3		② パートの役割を理解し，音量に気を付けて自分のパートを演奏している。	

価 本 時 規 準	4	①自分たちのイメージに合う楽器の組み合わせを工夫して演奏している。		
	5	②自分たちのイメージに合う速さ，強弱，構成などを工夫して演奏している。		
	6		③工夫したことを生かし，友達と合わせて演奏している。	①楽器の音色やその組み合わせによる曲想や響きの違いを味わって聴き，友達に伝えている。

#### 4 指導と評価の計画（全6時間 本時4／6）

時	学習活動	具体的な評価規準・評価方法
<b>第1次：いろいろな音が重なり合う響きを味わって聴く。</b>		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歓喜」を聴き，曲全体の流れをつかむ。</li> <li>楽器の音色や重なり合う音の響きの違いに着目して聴く。</li> <li>楽器の響きによって曲想がどのように違うかを聴き比べる。</li> </ul>	アー① ・発言・活動の様子の観察
<b>第2次：楽器の重なり合う響きを味わって合奏する。</b>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ラバースコンチェルト」の範奏CDを聴き，気付いたことを話し合う。</li> <li>自分たちが表現したい「ラバースコンチェルト」のイメージを考える。</li> <li>グループに分かれ，パートの分担を決め，同じパートのメンバーで音程やリズムを確かめ合って演奏する。</li> </ul>	アー② ・発言・活動の様子の観察  ウー① ・演奏の聴取
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つのパートの役割を知り，全体のバランスや①パート（主旋律）と③パート（和音）を演奏するとよい楽器を決める。</li> <li>グループごとに主旋律と他パートの音量のバランスに気を付けて演奏する。</li> </ul>	ウー② ・演奏の聴取
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>低音楽器の音色が違う2種類の範奏を聴き，組み合わせる楽器の音色が違うと曲の感じが違うことに気付く。</li> <li>曲のイメージに合う②パート（副次的な旋律）と④パート（低音）の楽器の組み合わせについて考える。</li> <li>グループで組み合わせる楽器について話し合い演奏する。</li> </ul>	イー① ・発言内容 ・ワークシートの記述
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>速さ，強弱，構成など，イメージに近づけるためにどんな工夫をしたいのかについてグループごとに話し合う。</li> <li>グループごとに練習し，自分たちの表現を仕上げる。</li> </ul>	イー② ・演奏の聴取 ・発言内容・活動の様子の観察
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに演奏を発表し，感じたことを話し合う。</li> <li>もう一度「歓喜」を味わって聴き，楽器の音色の変化と曲のイメージを関連付け，曲想の変化や違いを味わって聴く。</li> </ul>	ウー③ ・演奏の聴取 エー① ・ワークシートの記述内容

## 5 本時の指導

### (1) 本時のねらい

- ・楽器の音色が違う2種類の範奏を比較聴取することを通して、楽器の組み合わせによる表現効果に気づき、自分たちのイメージにあった楽器の組み合わせを工夫することができる。

### (2) 期待する児童の姿と評価規準（思考力の高まりに関して）

自分たちのイメージに合う楽器の組み合わせを工夫している。

◇：ワークシートの記述及び発言から評価する。

B：自分たちのイメージに合う楽器について、楽器の音色が表す感じを基にワークシートに記述している。

A：上記の姿に加え、楽器の組み合わせについて他の楽器の音色と比べたり組み合わせた響きを意識したりした発言、または記述をしている。

\*具体的な発言や記述例は、「本時の展開」に記載。

### (3) 本時の構想

#### 【子どもの実態】

楽器の組み合わせによって表現できるイメージがあることに気付いていないため、演奏を工夫することができない子ども。

#### 【教師の働き掛け】

・低音の響きが違う楽器の組み合わせによる範奏を聴かせ「二つの演奏はどんなところが違いますか」と問い、演奏している楽器に着目させて考えさせる。

・「自分たちのグループのイメージにはどちらの音色が合っているでしょうか」と問い、二つの音色から選ばせる。

#### 【促される子どもの反応・音楽的な感覚】

・低音の音色が違うだけで曲の感じが変わること気付く。

・④パートの音色について考え、自分たちが表したいイメージに近づけるには、楽器の組み合わせを工夫するとよいことに気付く。

#### 【学習課題】自分たちのイメージに合う楽器の組み合わせを工夫しよう。

・②パートの楽器の音色を「木琴」「鉄琴」に限定し、「『木琴』『鉄琴』の音色はどんな感じがしますか」と問う。

・グループで選んだ④パートの音色に「木琴」「鉄琴」の音色を組み合わせで演奏して比べましょう。

・音色から受ける感じ取ったことについて発言し、二つの音色と表したいイメージとを結び付ける。

・音色や響きの違いから感じ取ったことを根拠に、イメージに合う楽器の組み合わせを工夫する。

#### 【子どもは、このようなことができるようになる】

楽器の組み合わせによって表現できるイメージがあることに気づき、イメージに合う楽器の組み合わせを工夫することができる。